

ラストホール

伊丹市南野字矢倉塚720-2
TEL:0727-81-8877

ラスト ライト コンサート ●Lustre Light Concert —待兼交響楽団—

10月25日(土) 14:00入場無料
小さなお子様にも、オーケストラの演奏を…。大人の方はもちろん、親子でまたはお孫さんと気軽にお越し下さい。楽しい楽器紹介もあります。

●「もっと知りたい人権の輝き」

私たちは、みんな幸せに暮らしたいと願っていますが、その一方で、さまざまな偏見と差別が根強く生きていて、多くの人々が傷つき、苦しめられています。そこで、ラストホールでは人権を「生きるための文化」ととらえて、次のようなイベントとセミナーを開催します。

- * 世界の難民写真パネル展
 - * 同和問題と人権文化
 - * はじめての手話講座
 - * 対人地雷の恐怖パネル展
 - * いじめに負けないワークショップ
 - * 人権コンサート
- 11月末から12月上旬にかけて
入場無料

●伊丹アーベント コンサートVol.46

～クリスマスコンサート～
12月21日(日) 14:00
一般1600円(2000円)
高校生以下及60歳以上

1000円(1200円)
* ジュース・ワインサービス付き
美しい音楽を聴きながら、クリスマスの雰囲気味わってみませんか。



クリスマスコンサート (96年12月)

●花前和男写真展

1月14日(水)～18日(日)
入場無料
会場/1Fエントランスホール
太陽光線のみを利用して身近な花を撮影した優しさあふれる写真展。

伊丹アイフォニックホール

伊丹市宮ノ前1-3-30
TEL:0727-80-2110

●伊丹ゆかりの音楽家

12月6日(土) 19:00
1500円(2000円)
* 伊丹市芸術家協会
発足10周年記念 共催

●伊丹シティフィル ハーモニー管弦楽団 『第7回名曲コンサート』

指揮:加藤 完二
今回で7回目を迎える名曲コンサート。一般公募によるピアノ・ソリストとの協演が目される「ラブソディ・イン・ブルー」(ガーシュイン作曲)をはじめ、阪神大震災で被災された方々の復興を願い、モーツァルト作曲の合唱曲「レクイエム」ほかを演奏いたします。



1月11日(日) 14:00
一般 1000円
高校生以下 500円(前売り、当日とも) *全席自由

●アイフォニック民族文化サロン “話題の地球儀”

NO.58 『愛しのバングラデシュ』
(講師)
大城一美 (イラストレーター)



雨と緑に恵まれたバングラデシュ。貧困、政変、自然災害といった困難と向き合いながらも力強く生きる、少々おせっかいだが心温かい人々、そしてヤスミン基金により'97年1月開校した小学校に学ぶ子供たちの輝く瞳。そこにいま、元気なバングラデシュの姿があります。

1月19日(月) 19:00～20:30
1500円(要電話予約)
会場/小ホール1

私・空・感 another time another place

携帯 大谷晃一 作家/(財)伊丹市文化振興財団理事長

携帯電話が、人間と世の中を変えるだろう。人の所在がたどころに分かる。仕事の便利だけではない。人と人がいつでも連絡でき、どんなときも密着していることができる。夫婦や恋人や友人の関係も改まるだろう。これは革命である。

ところが、車内で通話しているのが気に食わない、会議や会場で呼び出し音が鳴って気が散るなどという非難がわき起こっている。大改革であるからこそ、そんな反発の声が上がる。何や、ルールを知らんのか。革命にはきっと守旧派が出て来るものである。

これはおかしい。車内でおばさんや中高生がやかましくしていても、それほど非難しない。一方、携帯はやっつけられる。これは新しい利器を持っている者への恐れと嫉妬から来ている。大声で通話している側にも得意気が感じられる。どうや、おれは携帯を持っている。これが持っていない側の癪にさわる。

しかし、これは間もなく解消するだろう。携帯は安くて便利だから、やがて持つことが普通になる。すると、車内のこんな心理的状況はなくなる。そんなもんや。



アイホール

伊丹市伊丹2-4-1
TEL:0727-82-2000

●提携公演 199Q太陽族『透明ノ庭』

作・演出/岩崎正裕
12月12日(金)19:30
13日(土)15:00/19:30 14日(日)15:00
2500円(2800円) 中・高生2000円



「ここからは遠い国」(96年2月)

本年度、岸田國士戯曲賞最終候補に残った名作『ここからは遠い国』以来、1年半ぶりにアイホールに登場の太陽族。期待の新作は、P・オースターの小説をヒントに、ミステリーの枠組みを借りながら兄弟の確執をめぐる物語が展開されます。

●提携公演 遊気舎『人間風車』

作・演出/後藤ひろひと
12月18日(木)19日(金)19:30
20日(土)15:00/19:30 21日(日)15:00
22日(月)19:30 23日(祝)13:00/17:00
3500円(3800円) *全席指定
10周年を迎えて、ますますグレー



ドアップした舞台を見せる遊気舎。売れない童話作家が聞かせる夢物語に没頭する青年。やがて童話作家はその青年の妹に恋をします。童話の劇中劇と、現実の多重構造で描くサイコドラマ。

●提携公演 桃園会『うちやまつり』

作・演出/深津篤史
12月26日(金)19:30
27日(土)15:00/19:00 28日(日)15:00
2000円(2300円)
ペアチケット3600円 高校生以下1500円



「トートの書 #1死の教室」(97年2月)

震災を扱った作品や、古典に材を求めたものなど、多彩な活動が目される作家・深津篤史の新作は、超高層団地の一角にある空き地が舞台。ある日、住人の一人がその空き地に小さな墓が立っているのを見つけます…。作者曰く、今回は「静かなホラー」に挑戦。

アイテム'97 vol.1(通巻4号)
1997年10月15日発行
●(財)伊丹市文化振興財団
〒664 伊丹市南野字矢倉塚720-2
TEL:0727-81-8877
FAX:0727-81-9292
編集●アイテム編集委員会
デザイン●下東英夫

i t e m

アイテム'97 vol.1

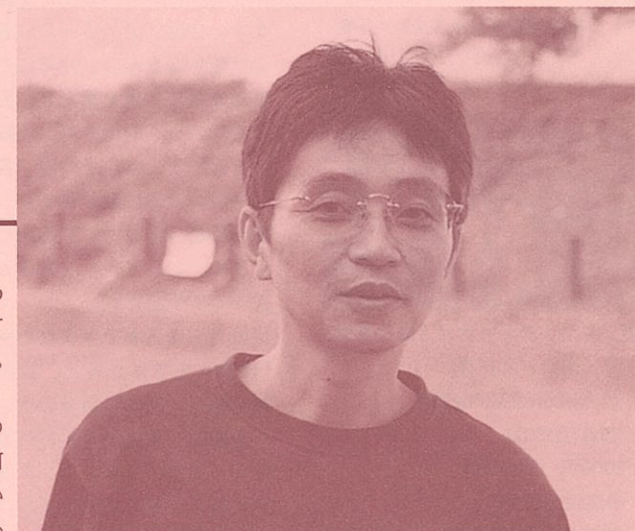
アイホール
ラストホール
伊丹アイフォニックホール

文化情報紙

(財)伊丹市文化振興財団

北村想 (プロジェクト・ナビ) インタビュー

春秋の公演の時だけでなく、最近では戯曲塾の講師として毎月、伊丹を訪れる劇作家・北村想さん。秋の新作は「ギャグなし、歌なし、踊りなし、の硬質な世界」と語る想さんに、伊丹のこと、作品のことを伺いました。



—アイホール・伊丹とのなれそめ、出会いのところからお話しをお聞きしたいんですが。

●それはここのプロデューサーの津村さんとのつきあいからですね。柿落としてやってそのままずっとです。最初はね、わりにウチも客入ってたんですよ(笑)。オレね、ヘソ曲がりなもので客が入るような戯曲を書かんのですよ。入るだろうなっていうホンはよそには書くんですけど大劇場に千人、二千人入れてというのは全然ピンとこないし、自分の芝居はそういうものじゃないと思ってるんですよ。だからここでは<本当の仕事>というものをさせて貰ってます。

—伊丹(アイホール)とはどういう場所なんでしょう? 大阪から離れた不便なところというイメージもあったと思うんですが。

●いや、地理的にはそんな離れたところじゃないですよ。大阪駅から15分でしょ。東京なんか電車で15分20分であっちこっち行ったりしますからね。東京でも下北沢は演劇のメッカになってますけど、あそこは要するにハズレなんです。大阪から伊丹に来ると、渋谷・新宿あたりから下北沢へ行くのと結局同じことで、それをあそこは本多劇場が演劇のメッカに作り変えてしまった。僕はそれと同じことやと思いますから。アイホールは地道な形ですけども、いちばん先鋭的にいろんな実験がなされている一つの演劇の現場やと思ってます。そこでやらして貰っている限り、絶対ヘタなものを持って来れないし、自分の中で出来た最善のものを持って来ようというも思ってるんです。

—行政が運営するホールとして評価していたら

いてる反面、「わかりやすいものを」という意見も聞くのですが、その辺はどうお考えですか。

●例えば今回の『血と青空』の台本を劇団員に渡して「これ何の話か、わかるか?」って聞いても「1回読んだぐらいではわかりません」って(笑)。劇団の人間でもわからんですよ何の話かって。つまりそれはストーリーやテーマがわかるってことじゃなくて、もっと違う意味だと思ってるんですよ。シャガールだってピカソだってムンクだって、全面的にわかるかわからないか、そこだけの勝負であって、パッと見た時にそれが<恐怖>であっても<暖かみ>であって、ドンッと自分に飛び込んでくるものがあつたら、それが<わかる>ということなんです。やはり演劇も同じで、全編見終わってドンッとくるものがあれば、わかっているわけです。ところが、悪しき国語教育のせいで、ここで作者は何を言わんとしますかとかね、芝居を見てもそれをやらなかんと思ってるんですね。そんなことは全然必要ないんです。アンケートの中で優れた答え方をしていたのがあって、10歳くらいの子供も簡単に書いてた。「わからなかったけど面白かった」。これがいちばんわかっているんですよ。つまり、そういうのが優れた観客だと思ってるんですね。

—でも、共感みたいなものを求めに来る人もいるとは思んですが。

●もちろん表現する半分というのは、追体験してもらって共感していただきたいというものがあるわけで、でも、あと半分というのはコイツはこういう風に世界を見ているんだな、オレと

は違う奴だな、ということを感じてもらったらいいと思うんですよ。共感できないからダメという風に決めつけるんじゃないで、そういう形で了解される方がいい。

—ところで、今回の新作『血と青空』なんですがどういうお話ですか。

●物語としては、病院で未知のウィルスと医者や看護婦が戦っている様というのがあるんですけど、ある階から上は隔離してあるから時々みんな屋上へ上がってきて、息継ぎをします。映画とかだとそのウィルスとの劇的な戦いをやるんですけど、その息継ぎの場面だけが描かれます。血というのは、ウィルスと人間との戦いそのものなんですけど、そんな修羅場なんか無化してしまうような、透き通るような凄みのある青空と、その対比ですね、ちょうどその中間地点に屋上があるわけです。

—なんでも遺書を書くつもりで、とお聞きしたんですが

●そう、ボク自分の遺書のつもりで書いたんですよ。遺書っていうのは最後の言葉、最後の自己表明な訳でしょ。まだ、死にはしませんけども、一応そういうもんですよ。とって、そんな堅苦しい話じゃないんですけどね。

ーいわば、現在の北村想の全てですか？

●ですから、決意表明ですよ、一つの。遺書ってのはそういうもんです。

北村想 (きたむら・そう)
1952年滋賀県生まれ。劇作家・演出家。名古屋で演劇活動を始め、現在、プロジェクト・ナビ主宰。「十一人の少年」で第28回岸田戯曲賞受賞、「雪をわたって・・・第二稿月のあかるさ」で第24回伊國屋演劇賞を受賞。



■プロジェクト・ナビ「血と青空」
作・演出／北村想
11月22日(土)3:00/7:00
23日(日)3:00
3000円 (3300円)
中高生:2000円
(当日のみ/要学生証)
全席指定席

第10回伊丹市民映画会

ラストホール

100回目を迎える今年の市民映画会は、アンケートなどでいつもご要望の多い懐かしの名画を上映します。昨今の映画離れ、ビデオの普及により、フィルムがリプリントされなくなったため、古い映画はフィルムの状態が非常に悪く、また新しい映画は興行が終わると使い捨てといった状況です。みなさまにご満足いただける映画を上映するというのもなかなか難しいのが現状ですが、やっぱり映画は大きなスクリーンで映画として楽しみたいと思うのです。最近、映画を観ていないという方、ぜひ足を運びください。

AI・HALL
DANCE COLLECTION
vol.13

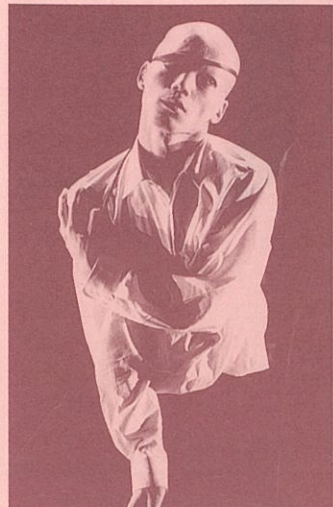
●伊藤キム
+輝く未来
『あなた』

アイホール

振付家の登竜門として世界的に権威のある「パニョレ国際振付賞」。40ヶ国以上、500名もの世界中のダンサーがこのコンクールを目指します。今回、アイホールに登場する伊藤キムさんは、96年にこの栄えある賞に入賞を果たし、国際的なダンスシーンの中で、一躍、脚光を浴びました。その後、各国から多数の公演依頼が寄せられ、今回の作品『あなた』も国内だけではなく、ロンドン、イスラエルと巡演する予定です。

伊藤さんは日本で生まれたダンス「舞踏」を学んだあと、独自の活動を続け、95年に自分のカンパニーを結成。舞踏にとらわれることなく、演劇、モダンダンスなどの枠を越えた新しいダンスパフォーマンスの世界を示したといわれています。

伊藤さんのダンスの特徴は、人々の日常でのしぐさや行動を観察してそこからユニークな踊りを構成して行くことです。「人はなぜ困った時に頭を掻くのか」「主婦はどうして長電話をするのか」など、素朴で具体的な人間に対する疑問点から出発し、その行動の中に潜む、現代という時代を鋭く風刺する舞台を創りあげていきます。今回の『あなた』は、伊藤さんが幼い頃に三面鏡の中で無限に映し出される自分の姿に魅了された経験をモチーフにしています。人と違うことを恐れ、常に同じであることを要求されている現代社会は、まさしく合わせ鏡のような世界なのでは、という問題意識を私たちに投げかけていきます。ナイフの切っ先のようにシャープで鋭いその一挙手一投足。21世紀のダンスシーンを担うと呼び声高



いその舞台にぜひアナタも立ち会ってください。
伊藤キム+輝く未来：ダンス公演『あなた』
構成・演出・振付／伊藤キム
10月31日(金)19:30
11月1日(土)14:00
3500円 (3800円)
整理番号付自由席

伊藤キム ダンスワークショップ
11月2日(日)3日(祝)13:00~17:00
料金：7000円(2日間通し)
4000円(11/2のみ)
定員：20名(経験不問)

10月18日(土)
「スミス都へ行く」(‘39.米)
監督／フランク・キャブラ
主演／ジェームス・スチュアート
アメリカならではの痛切な正義感と愛情の美しさを描いた傑作

11月8日(土)
「地上より永遠に」(‘53.米)
監督／フレッド・ジンネマン
主演／モンゴメリー・クリフト
アメリカ陸軍の腐敗と兵士間の愛憎を描いたアカデミー賞受賞作品

12月6日(土)
「ローマの休日」(‘53.米)



監督／ウィリアム・ワイラー
主演／オードリー・ヘプバーン
世界の恋人オードリーが誕生した記

念すべき作品
10:30 13:30 16:30 (3回上映)
一般 800円(1000円)
高校生以下及60歳以上500円(700円)

ラストホール秋の講座〈市民文化塾〉「ジャズを知る」—コンサート付—

ラストホール

ジャズは、アメリカの音楽です。しかし、根底にはアフリカ音楽の伝統が流れています。アフリカの人たちにとって音楽は、生活の様々な場面を表現するために、多くの目的をもっていました。ジャズは、ヨーロッパの音楽とは異なる伝統と美学から生まれたものと言えるでしょう。

ジャズピアニスト香川明徳さんは、ジャズについてこう語っています。「自分にとって、ピアノが一番自分の言うことをきいてくれる存在です。その演奏を通して自分の言いたい事が言えるかどうか。一緒に演奏しているメンバーの音やメロディをきいて、自分はどう演奏するか。常にそのかけひきを楽しみながら音楽をつくりあげていく…それは人との会話に似ています。とにかく、自分の鼻歌が、指一本の演奏が、ジャズのはじまりで、それが、ジャズの楽しさです。」

そんな香川さんを講師にお招きし、下記の日程で講座を行います。
10月17日—ジャズの歴史
10月31日—ジャズのきまり
11月14日—「I Love Jazz」コンサート鑑賞
金曜日19:00~20:30 定員—30名
受講料—2800円
※コンサートのみの前売券も発売中!

日本も含めた世界の諸民族がそれぞれの時代に発展させた伝統音楽や伝統芸能をわかりやすく紹介する『アイフォニック地球音楽シリーズ』、今年11月にはシリーズ第50回を迎えます。また、このシリーズに伴い、ビデオ・スライドなどを用いて世界諸民族の芸術・風俗・衣食住などに関する現代の話題を提供するのが、アイフォニック民族文化サロン“話題の地球儀”です。

アイフォニック地球音楽シリーズ no.50 「みちのく躍動 鬼剣舞・鹿踊・神楽」

伊丹アイフォニックホール

〈出演〉岩手県北上市
口内町民俗芸能保存会
古くから人々は自然界を畏敬し、社会生活を営む上で人間のなし得ないことに行き着くとき、民俗芸能を踊って神や仏に対して祈りを捧げました。
今回は、岩手県の中でも多くの民

俗芸能が保存されている北上市口内町より「口内鬼剣舞(くちないおにけんばい)」、「行山流口内鹿踊(ぎょうざんりゅうくちないしおどり)」、「早池峰嶽流線内神楽(はやちねだけりゅうあやうちがら)」をお届けします。念仏供養を行うために踊られる「鬼剣舞」。仏の化身である鬼の面をつけた勇壮、華麗で躍動美あふれる激しい踊りです。動物崇拜、疫病退散を祈願する「鹿踊」。その名称は東北地方の代表的な食用肉であった鹿の古称「かのしし」に由来しています。鹿頭など約15kgもの装束をまとった8人の踊手が鹿の動きを模し、太鼓を打ち鳴らしながら歌い踊る様は圧巻です。そして神に捧げる「神楽」。古くから信仰の山として修験道が栄えた早池峰山。その行者である山伏によって伝えられてきた「山伏神楽」は、新穀感謝、悪魔払い、息災延命を祈って、家々の座敷を舞台に古風な能や狂言を演じます。
北国の厳しい風土で、何百年の時を経て鍛え上げられてきたこれらの民



鹿踊

衣川久美子&ザ・マスコット 「歌って、おどろう! ワクワクタイム」

ラストホール

NHK教育テレビ「楽しい教室」などで活躍した衣川久美子とぬいぐるみバンド“ザ・マスコット”が会場の子どもたちと一緒に作り上げるショー「歌って、おどろう! ワクワクタイム」を開催。
おなじみの手遊び歌や、なつかしい



童謡がいっぱいのハートフルなショーです。また、カラフルなバルーンをお花や動物などに变身させるピエロの内藤信介とバルーンレディの横田寛子も登場。
大人もこどもも楽しめるステージに、ご家族そろっておこし下さい。

11月22日(土)
14:00
一般 1500円(1800円)
子ども(2歳~小学生) 800円(1000円)
親子セット券 2000円(2500円)

俗芸能。その素朴で力強い律動が、みちのくの人々の生きざまを伝えます。
11月22日(土)19:00
一般 3000円 60歳以上 2500円
学生 2000円(各500円UP)
*全席自由

アイフォニック民族文化サロン “話題の地球儀” no.56

「みちのく芸能模様」

伊丹アイフォニックホール

〈講師〉昆野精正(岩手県北上市口内町民俗芸能保存会事務局長)
東北地方の中でも特に多くの民俗芸能が伝承する岩手県北上市。人々は古くから芸能という形の中に、自然界への畏敬の念を表現し、昇華してきました。北国の厳しい風土で鍛え上げられたその民俗芸能のたくましさ、すばらしさとは一。

11月10日(月)19:00~20:30
1500円(要電話予約)
会場/小ホール1

アイフォニック地球音楽シリーズ no.51

「中世が甦る クリスマス クリスタルな降誕祭」

伊丹アイフォニックホール

公演中止

〈出演〉中世音楽アンサンブル エラシオ
現在のように、クリスマス・ツリーもケーキもプレゼントも存在しなかった中世のクリスマス。石造りの修道院や大聖堂には、キリストの降

アイホール
伊丹市伊丹2-4-1
TEL: 0727-82-2000
■JR伊丹駅前

伊丹アイフォニックホール
伊丹市宮ノ前1-3-30
TEL: 0727-80-2110
■阪急伊丹駅北へ徒歩7分
■JR伊丹駅西へ徒歩7分

ラストホール
伊丹市南野字矢倉塚720-2
TEL: 0727-81-8877
■阪急稲野駅西へ徒歩8分
■阪急伊丹駅より伊丹市バス系統(37) 阪急塚口行
■阪急神戸線塚口駅北側出口より伊丹市バス系統(37) 阪急伊丹行ほか

誕を祝う限りなく清澄な歌声が響き渡ります。その敬虔で、喜びに満ちた歌声は、現代に生きる私たちの心にも静寂と安らぎをもたらします。今回は、アメリカの他ヨーロッパでも研鑽を積んだベンジャミン・バグビーを中心とした、世界的に高い評価を得ている中世音楽アンサンブル“セクエンツィア”が、中世のハーブやフィドルなどの幻想的な旋律のせて、透明感あふれる中世のクリスマスを再現します。
12月13日(土)19:00
一般 3000円 学生 2000円
(各500円UP) *全席自由



中世ハーブを持つ音楽監督のバグビー氏

アイフォニック民族文化サロン “話題の地球儀” no.57

「ヨーロッパの壁絵を尋ねて」

伊丹アイフォニックホール

〈講師〉松味利郎(京都精華大学教授)
ヨーロッパには、ギリシア神話やキリスト受難劇、そしてメルヘンの世界まで、様々な絵を建物の外壁に描く伝統があります。中世、ルネサンスの時代から現代に至るまで、敬虔な祈りと生の歓喜を映し出してきたその壁絵街道は、さながら「街角のミュージアム」。
12月1日(月)19:00~20:30
1500円(要電話予約)
会場/小ホール1

